

平成31年度 神奈川県立横浜国際高等学校 指導計画 (予定)

教科・科目	知の理論 (Theory of Knowledge) (総合的な学習の時間)	学年	2, 3	教科書	(1)Decoding Theory of Knowledge(Cambridge) (2)知の理論(Oxford) (3)「知の理論」(TOK)教師用参考資料(IBO) (4)Theory of Knowledge(ピアソン) (5)知の理論をひもとく UNPACKING TOK(伊藤印刷) など
		単位数	2, 2	副教材	

学習目標	1. 知識の構築に対する批判的なアプローチと、教科学習、広い世界との間のつながりを見つける。 2. 個人やコミュニティーがどのようにして知識を構築するのか、その知識がどのように批判的に吟味されるのかについて、認識を発達させる。 3. 文化的なものの方の多様性や豊かさに対して関心を抱き、個人的な前提や、イデオロギーの底流にある前提について自覚的になる。 4. 自分の信念や前提を批判的に振り返り、より思慮深く、責任意識と目的意識に満ちた人生を送れるようにする。 5. 知識には責任が伴い、知ることによって社会への参加と行動の義務が生じることを理解する。									
学習方法	1. 「知識に関する主張」を裏づける目的で使用されているさまざまな種類の正当化の根拠を特定し、分析する。 2. 「知識に関する問い」を提起し、評価し、答えようとする。 3. 学問領域や「知識の領域」がどのようにして知識を生成、形成するかを考察する。 4. 「共有された知識」と「個人的な知識」を構築するプロセスで「知るための方法」が果たす役割を理解する。 5. 「知識に関する主張」「知識に関する問い」「知るための方法」「知識の領域」の間のつながりを探究する。 6. さまざまなものの方を見方を認識して理解し、自分自身のものの方に関連づけることができる。 7. プレゼンテーションで、実社会の状況をTOKの視点から探究する。									
学習評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価の観点</th> <th>科目の評価の観点の趣旨</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a</td> <td>エッセイ</td> <td>所定課題を議論するにあたって、その生徒は、「知識に関する問い」を適切かつ説得力のある方法で分析したか。</td> </tr> <tr> <td>b</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>TOKの概念が実際的な用途に応用できることを、プレゼンターは十分に実証したか。</td> </tr> </tbody> </table>	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨	a	エッセイ	所定課題を議論するにあたって、その生徒は、「知識に関する問い」を適切かつ説得力のある方法で分析したか。	b	プレゼンテーション	TOKの概念が実際的な用途に応用できることを、プレゼンターは十分に実証したか。
	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨							
a	エッセイ	所定課題を議論するにあたって、その生徒は、「知識に関する問い」を適切かつ説得力のある方法で分析したか。								
b	プレゼンテーション	TOKの概念が実際的な用途に応用できることを、プレゼンターは十分に実証したか。								
※『「知の理論」(TOK) 指導の手引き』より作成										

内容のまとめ	時数	単元(題材)	評価方法
TOK導入(1)	8	○「知ること」を認識する ○「知ること」を多角的に捉える姿勢を身につける ○「知っていること」を分析することができるようになる ○「個人の知識と共有された知識」 ○「知識に関する問い」の導入	・話し合いへの参加状況 ・意見や議論のまとめの口頭発表
TOK導入(2)	6	○「知識に関する問い」の理解 ○「知識の枠組み」の導入 ○TOKの評価の仕組み	・TK/PPD(プレゼンテーション計画書) ・グループ面談(計画の確認) ・グループ・プレゼンテーション ・エッセイ
知識の領域(1)「歴史」	8	○歴史上の人物やその人物の業績の「価値」はどのようにして決まるのか、またその価値の判断の「根拠」を形作るものは何かを分析させ、グループごとに発表させる。 ○歴史における事実とは何か、何を持って事実とするか、考えをまとめさせる。 (キーワード:主観性、客観性、専門家、証拠、価値、妥当性、信頼性、バイアス、権威 等)	※自己評価/内省用として「TOKノート」を課す
知識の領域(2)ヒューマンサイエンス	6	○情報手段としてのマスメディアが、私たちの「知るための方法」にどのように影響を与えているかを分析していく。 ○生徒は、自分自身が得た情報がどのようにして理解され、価値観を形成していくのか、またそのプロセスはいわゆる「世論」にどのような影響を与えているかということを通じて深め、考えていく。 (キーワード:主観性、客観性、専門家、証拠、価値、妥当性、信頼性、バイアス、権威 等)	
知識の領域(3)「自然科学」	6	○自分の知っていることをどの程度まで説明できれば、「それが事実であると知っている」ということができるのかを考えていく。 ○科学分野の知識の「信憑性」をどのように捉えるべきかということについて議論する。 ○歴史における「事実」と科学分野における「事実」の違いについて考えさせる。 (キーワード:専門家、信念、証拠、価値、バイアス、権威 等)	
プレゼンテーション練習	8	○プレゼンテーション計画書の作成と面談、実施(練習)。	
知識の領域(4)「倫理」	8	○「善」と「悪」が社会全体、各種集団や各個人の中でどのように決まるかを考えるところから探究をはじめ、「ジレンマ(生命倫理)」の議論からスタートし、再生医療、出生前診断、不妊治療等の問題へと掘り下げていく。ロールプレイを通じて特定の立場からの考え方を深めさせ、表現させる中で、「自分や他者の考え方がどのような経験や価値判断により形成されていくか」を認識させる。(キーワード:ジレンマ、規則、モラル、信念、信仰、価値、判断 等)	
知識の領域(5)数学	8	○「数学の知識は、世論や読む人の意見をどのように左右するか」をロールプレイを通じて考えさせる。 ○数学の扱う正確さや客観性、自然科学分野とのつながりなどに気付かせる。(キーワード:正確さ、客観性、演繹法、帰納法、三段論法、推測 等)	
知識の領域(6)芸術	8	○個人的な知識と共有された知識について確認しながら、作品の形や価値、表現のあり方などについてグループ話し合いで考えを深め、各自で知識に関する問いを立て、エッセイを書く。 ○知識と価値判断の関わり、何かを芸術とする要素は何かなどを考えさせる。(キーワード:主観、創造、正当化、価値、知識等)	
プレゼンテーション実施と提出	20	プレゼンテーション計画書の作成。プレゼンテーションの実施。	
エッセイ練習	24	リサーチと面談。エッセイの執筆と提出。	
TOKを深める	8	これまでの活動を振り返り、TOKが自分の「知識」の形成や学習の姿勢にどのように影響を与えているかをグループでそれぞれポスターと、10分程度のプレゼンテーションにまとめ、文化祭で展示発表、および授業内でIBコース1年生に発表する。	